

令和8年11 月2日(月)発行

生活指導便り 11月号

渋谷区立広尾中学校 生徒部

11 月の生活目標

服装を正そう

今月の生活目標は、「服装を正そう」です。

皆さんは、なぜ標準服があるのか考えたり、調べたりしたことはありますか？学校のきまりになっているからと思っている人は、この機会に標準服を着る意味を知り、正しい着こなしができるようになりましょう。

本来は平等に教育を受ける人の象徴

標準服は元々、貧富の差がなく、同じ場所で同じものを多くの人が学んでいることを象徴する服装でした。どのような人でも、貧富や身分の差など関係なく、統一された身なりで学ぶことができる学校という空間で、一体感や愛校心などを醸成する役割を果たしたのが標準服でした。では、現代で標準服を着ることの効果を以下にまとめました。

1 仲間意識を高める

同じ服を着ることは、生徒同士の仲間意識が芽生えるだけではなく、学校の一員としての帰属意識も高まる効果があると言われています。スポーツでも同じユニフォームを着るのは、分かりやすくするためだけでなく、一体感や仲間意識を高めることにもつながっています。また、個人としてではなく学校の顔としての自覚をもつことができ、より行動に責任感が増すそうです。

2 オンとオフの気持ちの切り替えができる

企業などで制服が導入されている場合、私服から制服へ着替えることで、気分が自然と仕事モードに切り変えることができます。また、仕事とプライベートにメリハリを付けるだけでなく、集中力をアップさせる効果もあります。学校では仕事ではなく、学習への集中力が期待できるということです。

3 良くも悪くも周囲から認識される

標準服を着ることで、年齢や学校が分かります。これにより、犯罪被害の防止にもなっています。

また、衣服は非言語(ノンバーバル)コミュニケーションという役割があります。人間は言葉で他人とコミュニケーションをとりますが、それ以上に表情や態度、そして服装からもお互いを見てコミュニケーションをとっています。「第一印象」という言葉を聞いたことがあると思いますが、初めて出会った人の見た目で印象を決めています。だらしない服装をしていれば、だらしない人だと思われているということです。



ルールだから仕方ないではなく、以上のことを理解して、今月は正しい服装で生活することを意識しましょう！

11月はふれあい月間です！

東京都教育委員会では、6月、11月を「ふれあい月間」とし、都内の全小中学校で取り組んでいます。「ふれあい月間」は、いじめや自殺、犯罪・非行等の問題行動、不登校等の未然防止やその対応に向けた取組の充実を図るため、各学校が現状や取組の効果等を把握し、また、未然防止や早期発見・早期対応につながる具体的な取組を実施することを目的としたものです。

6月にも実施しましたが、広尾中学校では、全生徒からいじめにつながる諸問題についての「ふれあいアンケート」を実施します。気になる回答があった生徒には、先生方が話を聞き、対応します。また、相談したいという質問項目に「はい」と回答を記入した生徒は、必ず話を聞きます。

少し話は変わりますが、「ふれあい」という言葉は、人と人が心を通わせあうことを意味しています。心のふれあいとは、表面的な交流だけにとどまらず、お互いの感情を深く理解し合うことで生まれるものです。メールやチャット、SNS など文字でのコミュニケーションがあふれている現代だからこそ、心と心のふれあいを大事にすることが求められているように感じます。

心と心がふれあうためには、自分だけの価値観や考えだけにとらわれるのではなく、他者を知ろうとすることが第1歩ではないでしょうか？自分と違うからと言って攻撃したり、興味をもたなかったりしていると心がふれあうことはまず起こりません。逆に相手を知らないからこそ、知ることの楽しさがあると思います。日頃から、自分の周りの人に関心をもってください。今その人は何を考え、何を感じているのだろうと考えるようにしてみてください。そう考えることが、自分の心の成長にもなります。相手を思うことで思いやりの心が育まれるはずです。思いやりの気持ちをもって人と「ふれあう」ことで温かい気持ちがまた生まれてきます。温かい気持ちの関係が広がることで、人を責めたり、蔑む気持ちを少なくしたりして、心地よい集団ができるようになると思います。広尾中の全校生徒が、そのような関係の集団になってくれることを期待しています。そして、その集団の中で、一人一人が未来に夢と希望をもち、挑戦していく人になってほしいと思っています。







この物語には続きがあります。東京都教育委員会のホームページ考えよう！いじめ・SNS@Tokyo にアクセスすると続きを閲覧することができます。ぜひ続きを見て、自分を見つめてみましょう！